

佳作
(子どもの部)

「そらいろのたねを読んで」

荒川区立第二日暮里小学校五年

鈴木 ひより

柳田邦男先生、こんにちば。

先生は、「種」と言われたら、どんなものが生えてくると想像しますか？私は、ヒマワリが好きなので、ヒマワリが生えてくると考えます。この本では、なんと家が生えてくるのです。

この物語は、ゆうじがきつねにそらいろのたねを、もらったのがはじまりです。そこでゆうじはその種を植えました。すると、家が生えてきました。しかし、キツネがやってきて、ゆうじの家をうばっ

てしまいました。

私は、この本の中でもきつねが家をうばってしまったシーンが心に残りました。最初は、人の家をうばうなんてひどいなと思っていました。しかし、自分の立場に置きかえてみると、私も自分のあげた種が家になったらくやくして、ついうばってしまうのではないかと思いました。そのため、きつねがゆうじの家をうばってしまう気持ちもわかるようになってきました。私は、自分の何気ない持ち物が思ったより貴重だったり、特別なものだったりすることもあるんだなと思いました。

私は、低学年のころ山に行って、大きな石の山に出会いました。せっかくだから一つ、石を持って帰りました。どこにでもありそうな灰色の石だったのですが、一部だけきれいな緑色になっていまし

た。もしかして思っ て石を磨いて見ると、やはり「ほたる石」という、ほつ石の一種でした。この時は、とても幸せな気分でした。

わたしは、「そらいろのたね」というテーマを見て、空色の種は特別なものではないのかと思いましたが。空色の種なんて見たことがないからです。私は、この本を読んで私も、何か特別なものを見落としているのではないかと思うようになりました。もっと身の回りのものに興味を示し、いつか素晴らしい発見をしたいです。この本の作者の本は、わたしがようち園のころのお気に入りでした。この作者の本は、現実には無いような、特別なものがたくさん出てきます。この作者も、身近なものからたくさん発見をし、その幸せをもっとふくらませ、本をかいているのかもしれない。私もこの作者

を見習って過ごしたいです。

柳田邦男先生からのメッセージ

この絵本は、主人公のゆうじがきつねからもらったそらいろのたねを植えたら家が生えてきて、もともとたねを持っていたきつねが、その家を奪ってしまうという奇妙な話ですね。

でも鈴木さんは、ただ奇妙だと思うのではなく、自分の身のまわりにも、何か特別なものがあるのに気づかないでいるのではないかと、思いを发展させ、もっと身のまわりのものを見つめ直そうと考えるようになったという。

このように絵本から得たヒントを、自分の身近なものに引き寄せて、「ものを見る目」を发展させるといふところに、私は感心しました。